

デジタルアーカイブの活用成果のフィードバック（還元・情報）

～「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」と

2011年以後の岐阜女子大学沖縄サテライト校の還元情報の実践について～

後藤忠彦（岐阜女子大学）

「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」平成29年4月（デジタルアーカイブの連携に関する関係省庁等連絡会・実務者協議会）では、第4章「データを活用するに当たって」で次のように示している。

- (1) データの活用における留意点
- (2) 付加価値情報の付与
- (3) 情報間の関連付け
- (4) 活用の結果できた成果物の還元
- (5) 活用のためのコミュニティ形成

「データを活用するに当たって」で示されるように、付加価値情報、情報間の関連付け、活用成果の還元、さらにコミュニティ形成は、デジタルアーカイブの活性化にとって重要である。

これらの基礎実践は、岐阜女子大学沖縄サテライト校で2011年から地域の人達や学生・院生等の協力で、進められてきた。この実践の成果は、2015年頃から報告してきた。このアーカイブ Data Reportでも前号までに一部報告した。

岐阜女子大学沖縄サテライト校 2011年からのフィードバックの実践

デジタルアーカイブの活用成果のフィードバック（還元情報）の沖縄での実践研究としては、次の二件である。

① デジタルアーカイブ「沖縄おうらい」（2011年～）

観光で2011年から利用、……特に沖縄への修学旅行で利用

観光用として沖縄の地域文化の映像コンテンツを中心に提供し、その実施成果のフィードバックを依頼し、集め整理改善を進めている。

②デジタルアーカイブ「過去の教育実践資料」を用いた学習指導・学力の向上（2012年～）

沖縄の地域の人々の大きな課題である小学校の全国学力・学習状況調査の平均点が長年全国最下位であり、このために学習指導、学力の向上にこれらのコンテンツの分析結果を役立てた。（Data Report No.2 参照）また、さらに向上させるため知の増殖型サイクルを構成した。

一連のプレゼン、課題の解決等への適用の結果、次のようなことが明らかになってきた。

（1）フィードバックとメタデータの記録項目

還元情報として活用成果が送られてくる。これを整理しまとめる1つの視点として次の項目を実践結果から決めた。

- ・ 特色
- ・ 活用支援（利用注意）
- ・ 結果（改善点）
- ・ 処理プロセス
- ・ 関連資料
- ・ 利用分野

（これらは、メタデータに記録項目として位置づけ、フィードバックデータを分析整理し記録する）

（2）成果の還元情報と整理、付加価値情報・情報間の関連付けに役立てる

還元情報の中には、このような資料を追加しては、このような使い方をして効果があった、などコンテンツの価値を高める情報が提供されている。

また、新しいデジタルコンテンツの提供や他の機関のコンテンツ等の紹介があり、これらをリンク情報として取り扱い、より深みのあるデジタルアーカイブにすることができる。

（3）知の増殖型サイクルとしてのフィードバック

知的創造等の処理では、デジタルアーカイブからの抽出、分析、

【提供計画】、【実践】、【評価】、【改善】のフィードバックが構成される。

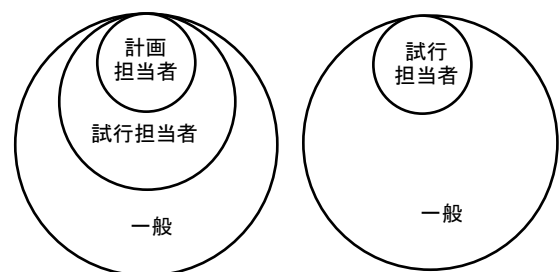
（4）つなぎ役（ハブ、統合ポータル）を通してのフィードバック

ハブ、統合ポータルからのフィードバックがどのような観点で還元情報が提供されるのかまだ不明であるが、今後、フィードバックシステムが整備され、還元情報の提供に期待したい。

（5）コミュニティの形成

デジタルアーカイブの課題解決等の分析結果を地域の人々へ適用するには、分析結果をどのように使うか、計画担当のグループ、その試行実施をするグループ、一般の人々の三つのグループで構成した。

また、「沖縄おうらい」のようにプレゼンを主とする利用では、試行担当者と一般の二つのグループによって形成した。デジタルアーカイブを単に提供では、利用されない。広く活用されるには、コミュニティの組織化が当面は必要と考えられる。



課題解決のコミュニティ プレゼンのコミュニティ

コミュニティの形成